

6月の衛研検査情報

～トピックス～

平成28年度 家庭用品検査結果

家庭用品とは、衣料品や洗剤など私たちが日常生活で使用している生活用品のことをいいます。家庭用品担当では、乳幼児（生後24か月以下）用の繊維製品（よだれ掛けなど）、乳幼児用以外の繊維製品（手袋、くつ下、えり飾りなど）および家庭用化学製品（家庭用接着剤、塗料、エアソール製品、洗剤など）について、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」（家庭用品規制法）に基づき検査を行っています。

主な結果 平成28年度に規制基準に関する検査で取り扱った検体数は57件、延べ検査項目数は384件でした。検査の結果、規制基準を超えた検体はありませんでした。

アレルギー物質を含む食品の検査結果

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目（卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに）が特定原材料として指定されています。加工食品等にこれらの特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、加工食品では表示の記載漏れや混入（コンタミネーション）等により、食物アレルギーをもつ人がその食品を食べた場合、じん麻疹、下痢、呼吸困難などのアレルギー症状を引き起こし、死に至るケースも考えられます。そのため、横浜市では主に食品に特定原材料の表示がないものの検査を行い、食品の安全を確認しています。

主な結果 平成28年11月、平成29年1月および2月に各区福祉保健センターが市内の保育園、小学校等にて収去した卵・乳除去食などについて、卵の検査を52検体、乳の検査を31検体行いました。その結果、乳の検査で1検体が陽性となりました。この製品には、「乳、卵を含む製品と同じ工場で製造」という注意喚起の表示があり、原料に乳の使用がないことから、製造ライン共用による混入の可能性が考えられました。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページでは、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成29年5月は、大麻（マリファナ）、クロストリジウム-ディフィシル感染症、B群レンサ球菌（GBS）感染症に関するページのアクセスが多くみられました。総件数は84,692件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。